

おにの新聞



地域福祉活動グループ NPO「おにの家」

埼玉県熊谷市板井 1220-1

電話 048-536-1344/FAX048-536-1915

<http://onikko.org>

おめでとう！勤続20年

2023.10.4(水) おにっこハウスにて「勤続20年を祝う会」を開催しました。

前回のお祝いは2020年。その間に20年の節目を迎えた仲間から、私のお祝い いつになったらできるのかな・・・と心配の声を聴きつつ、コロナという我慢の時を経てようやくこの場を持つことができました。

今回の勤続20年をお祝いするのは5名の方。その5名をお祝いしたいと大勢の参加者が集まり、総勢50名の大きな祝いのイベントとなりました。当日は、ハーブ、ピアノ、ソプラノ歌手と生演奏の方も来ていただき、お祝いに花を添えて下さいました。

「20年」過ぎてしまえばあっという間。かもしれませんが、今の自分の20年前を振り返れば、その重みと尊さを感じます。

楽しいこと悲しいこと、たくさんたくさん。

壁もあった。笑ったし泣いたし、くやしいこともあった20年。

そして、おにっこハウスを支えてくれた大切な20年です。



5名の方1人1人に理事長の尾島さんから表彰状が読まれ、授与されるその瞬間は、会場が大きな大きな拍手につつまれました。はずかしい、でも頑張ってきた誇らしいその表情に、一緒に日々働く私たちもとても嬉しい気持ちになりました。「おめでとう！」

授与式に続いての生演奏は、透き通るソプラノの声、初めて見るハーブの音色にピアノのメロディ。

秋の夜にぴったりな、ゆったりとした曲を中心に、会場全体がうっとり聞き入ってしまいました。

生でこんなに素敵な演奏を聴く機会も久しぶり。素晴らしいひと時を過ごさせていただきました。

おにっこハウスができて36年。勤続20年を祝う会は、今回で3回開催しました。

これからも、山あり山あり、谷あり谷あり、穴あり壁あり(笑)

それでも今、今日1日を、笑って汗かいて一緒に積み重ねていこうネ！



(松村 理香)

味噌仕込み班

～ 価値のある おにっこ味噌 を ～

今年も美味しい 生きている おにっこ味噌 が出来ました。9月下旬から10月上旬が新味噌販売の時期です。美味しいお味噌が出来てほっとひと安心もつかの間、次の味噌仕込みに向けて準備を進めていきます。何タンク（1タンク＝約920kg）仕込むか、その為の材料はそれぞれ何kg必要になるか…。材料ごとに注文・納期の確認。ここまでは足りない頭をフル回転させながらも割とスムーズにいくのですか、ひとつ心配なことが…。

みなさんも大変な日々を過ごした夏の猛暑。人間も大変だったのだから作物だって大変な思いをしながら育ち、例年よりも収穫量が少なくなってしまったようです。それにより価格が上がってしまい、私たちの手作り味噌の材料の販売価格も見直させてもらうことにしました。世の中いろんなものが値上がりしていますが、やはり販売する側としては心苦しいです。

値上りを理由に、購入を検討するということがありますよね？！

でも、値上がりしても価値のあるものだったら、また購入しますよね？！

私たちは、自信をもって 生きている おにっこ味噌 というブランドの価値のあるものを作っています。みなさんに美味しいと言っていただけ こうじ・味噌を作っています。

ぜひ今年も、手作り味噌の材料をご注文くださいませ。お待ちしております。

（味噌仕込み班・野部 由希子）



味噌養鶏班

～ “養鶏ボーイズ” と “ザ・配達人コンビ” そして “36年の二人” ～



とにかく暑かった今年の夏、鶏も夏バテで卵の産みもだいぶ落ちました。“養鶏ボーイズ”の3人、Yさん・Oさん・Aさんは、汗びっしょりになりながら鶏の世話をしてくれる頼れる人達です。自分たちの水分補給も大事ですが、鶏小屋の温度を下げるための水かけもかかさず行いました。

セットされた地卵や味噌・お米などを、“ザ・配達人コンビ”がおにっこの顔となり、曜日別のコースでお届けしています。

Sさんは 月曜・東松山コース、木曜・深谷コース、金曜・寄居コース。

Eさんは 火曜・熊谷コース、木曜・嵐山コース、金曜・八木橋デパートです。

そして右上の写真は“36年の二人”、Wさんと施設長です。二人で「おにの家」を立ち上げ、味噌作りと養鶏を36年前に始めました。Wさんは7年の静養期間を経て昨年11月に復帰、卵拭きや資源回収、薪割り、配達などを行っています。新たな作業として、最近購入した粉碎機でクズ大豆をエサ用に加工しているところを撮りました。

味噌仕込みの“工場長”とも呼ばれていましたが、今は“元”が付きます。

（味噌養鶏班・鈴木 幸子）



ハイツ桜ヶ丘

法人のグループホームで 27 年近く暮らしてきたメンバー二人が、新しい夢に向かって動き始めました。



「Hさん、一人暮らしへの第一歩」

9月からサテライト事業を利用し、ハイツスタッフの支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしを始めました。長年続けてきた自分の暮らしの場である共同生活を見直すいくつかの出来事があり、数年前からおにっこハウスへ通い続けられる場所で一人暮らしをしたいという気持ちを持つようになっていきました。

一人暮らしに向けて、全障研出版の「くらしの手帳」をテキストにこつこつと学び準備をしてきました。住まい探しも家賃が払い続けられること、バス停が近いこと、自転車通勤可能なことの三つの条件を自分で立て、スタッフと一緒に不動産屋を回りアパートは自分で決めました。

現在は、夕食はハイツで取り、習い事で帰宅が遅くなる時や雨の日は食事を届けています。日中はこれまで通りおにっこハウスで働き、週 2 回ほど朝食後にハイツにやって来ておにっこハウスのメンバーと一緒に出勤していきます。ハイツスタッフは必ず週 1 回アパートを訪問し、日々の状況に応じて随時支援にあたっています。引っ越し当初は、不安な気持ちで夜を過ごしているところに「隣の人 がうるさくて寝られなかったよ。」と訴えていました。

これから様々な体験をするなかで自分にはどんな暮らしがっているのか、Hさんの自分らしい暮らし方が見つけられると良いと考え、私たちスタッフは応援し伴走していきます。

「Kさん、まだいろいろ経験したいから」

Kさんは、おにっこハウスで 12 年、かっぱ寿司からビッグボーイで 12 年くらい働いてきましたが、コロナ禍での閉店に伴い失業してしまいました。その後も就労支援センターにお願いしKさんが希望する飲食関係の職場を探してきましたがなかなか見つからず、また入院や通院などがあり 2 年半ほど日中もハイツで過ごしてきました。それでも昨年 7 月には、熊谷市の給食センターに求人があり採用されましたが、掃除をする時などの階段の上り下りが足腰に負担になったそうで 4 か月で退職しました。また日中もハイツでの生活になってしまいましたが、早朝の散歩や体重測定をするなど準備を続けてきました。体調も良くなり、職場が見つかるまではおにっこハウスで働いていようかと相談させてもらい、9月から受け入れてもらえることになりました。

数日すると就労支援センターから「飲食関係ではないけど、嵐山郷の洗濯業者に求人がある。」と連絡があり、Kさんは「行ってみたい。」と面接・実習を行い採用が決まりました。職場は自転車で 15 分ほどヘルメットをかぶり通勤しています。

働き始めてまだ 2 週間ほどですが、「自転車が少しきついな、仕事は衣類やタオルをたたんで番号ごとの箱に入れて運んで行く」と話してくれました。給食センターは距離があったので雨の日は車で送迎しましたが、他の自転車の人は合羽を着ているからと K さんも合羽を買い、先日の雨の日は合羽を着て出勤しました。



(ハイツ桜ヶ丘・桜井 克男)

月に一度の 食事づくり

「今日は何人食べるかな?」「今日の予定を書きだしてみよう」

月に一度、定休日の木曜日のキッチンは、そんな会話と共に始まります。

ああたこうだといつものように賑やかに喋りながら、お気に入りのペンで料理の手順を書いていくMさん。注文してくれた人の名前を書きだして人数を確認するYさん。二人と一緒に月に一度、スタッフのお昼を作るようになって数年が経ちました。



最初のうちは、調理に慣れる事と大好きなカレーを作ることで数ヶ月が過ぎました。そのうち「カレー以外のものが食べたい」という周囲の声に押されて、いろいろなメニューに挑戦してきました。豚すき丼、ハンバーグ、カツカレー、ドリア、冷や汁うどん etc.



そんな中で、最初はピーラーで皮を剥くのも恐る恐るだったMさん、慎重に野菜を切っていたYさんでしたが、今では包丁の使い方も格段に上手くなり、お米研ぎや盛り付けなどいろいろな事がスムーズにできるようになりました。自分達で作ったお昼をみんなが食べてくれ、「美味しかった」と声をかけられると、とても嬉しそうです。

いつか二人が作ったお料理で一日レストランが開けたら、それはそれは素敵だな♡と、そんな夢も持ちながら楽しくにぎやかに食事作りをしています。
(峯島 阿由美)

🚂🚂 研修旅行 🚂🚂 行ってきたよ 🚂🚂🚂

7月5日(日)、4年ぶりの日帰り研修旅行で伊香保へ行ってきました。

グリーン牧場に、お昼は水沢うどん。伊香保温泉のシンボル・365段の石段にもチャレンジ! どんどん石段を登っていく仲間が多くてびっくり。頂上の伊香保神社



では、登りきった達成感で満面の笑顔でした。

帰路の途中は、できたばかりの前橋赤城道の駅へ。道の駅とは思えない広大な敷地に色々なお店があり、福祉セレクトショップもとても素敵で、参考になることがたくさんありました。



楽しさを詰め込んだ旅行、真っ青な空の下、皆でワイワイと過ごせる楽しさを満喫した1日でした。

(松村 理香)



編・集・後・記

5月からコロナが5類へと移行し、今回の新聞は久しぶりに皆で集えた内容になりました。スマホもあるし便利な道具はいっぱいあるけれど、一緒に同じ空間で過ごす楽しさは、やっぱり何事にもかえられない格別なものがあります。

(松村 理香)